

宮城県林業普及活動情報

2024. 8月号 No. 195

もくじ

各地の林業普及活動情報

P 2～9

- 柴田農林高等学校及び大河原産業高等学校への実習支援 (大河原地方振興事務所)
- たらのめ生産者の生産支援 (大河原地方振興事務所)
- こけし原木(ミズキ材)確保懇談会 (北部地方振興事務所)
- 森林経営管理制度大崎地域圏域推進会議を開催 (北部地方振興事務所)
- 林業教室の実地研修(仙台地方振興事務所との合同開催) (北部地方振興事務所)
- 「杜のコケリウムコンテスト in 栗原&ワークショップ」の開催
(北部地方振興事務所栗原地域事務所)
- みんなの森林づくり推進事業活動団体への支援 (東部地方振興事務所)
- 海岸防災林イベント支援 (東部地方振興事務所)
- 女川町に対する森林経営管理制度伴走型支援打合せ (東部地方振興事務所)
- インターンシップ活動支援 (東部地方振興事務所登米地域事務所)
- 気仙沼市産きくらの販売支援 (気仙沼地方振興事務所)
- 南三陸自伐型林業協会の設立 (気仙沼地方振興事務所)
- 林業教室選択講座(チェーンソー)の開催 (林業技術総合センター)
- 林業作業士(フォレストワーカー)3年目研修を支援 (林業技術総合センター)
- 北海道・東北ブロック令和6年度林業グループコンクールの開催
(林業技術総合センター)

柴田農林高等学校及び大河原産業高等学校への実習支援

大河原地方振興事務所

【7日(水)】

柴田農林高等学校3年生に対し、森林作業道の作設方法等について座学を行うとともに、実際の森林作業道を歩きながら施工方法等について説明を行いました。

参加した生徒たちの中には森林作業道を詳しく見るのが初めてだった人もいたことから、興味深く説明を聞いていました。

【20日(火)】

大河原産業高等学校2年生に対し、林業機械や木材の利用・流通に関する基礎知識について説明するとともに、測樹方法について座学と実習を行いました。あわせて、川崎町森林組合による協力のもと、伐倒・集材・造材等の実演を見学した後、素材の検知作業や高性能林業機械の操作を体験してもらいました。実習後に取ったアンケートでは林業に従事したいと考えている生徒もおりました。

今回のような実習等により森林教育への支援を継続していくとともに、将来の担い手確保に向けた取り組みを実施していきます。



【森林作業道実習時の様子】



【高性能林業機械操作体験】

たらのめ生産者の生産支援

大河原地方振興事務所

【29日(木)】

角田市でたらのめ生産に取り組む方から、栽培等に関する相談があり、大河原農業改良普及センターと合同で現地確認と意見交換を行いました。

生産者から、水はけの問題や、苗の生育について相談があり、当方からは、林業技術総合センターから提供された資料等を基に、また、普及センターからは他の農産物を例にアドバイスを行い、意見交換しました。また、枯損や生育不良の箇所等については現地確認の上、部分的に枯損した箇所は、根の状況からも立ち枯れ病の可能性もあるため、消毒等管理方法についてアドバイスし、生産者からも理解を得ることが出来ました。生産者自身、日ごろから意欲的に情報収集をしながら取り組んでおられ、今後も工夫しながらタラノメ生産に取り組んでいきたいとお話いただきました。

引き続き、関係機関と連携し、生産者の生産量と品質向上に繋がるよう支援していききたいと思います。



【生産現場の様子】

こけし原木（ミズキ材）確保懇談会

北部地方振興事務所

【5日(月)】

鳴子こけし製作に携わる木地玩具協同組合の要望により、国会議員等を交えた懇談会が開催され、出席しました。

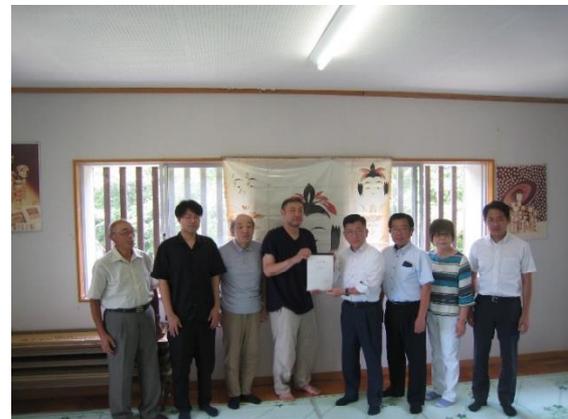
こけし産業を取り巻く環境は「高齢化」、「人員不足」、「材料不足」等により年々厳しさを増しており、次代へ引き継ぐため、木地玩具協同組合と行政が一体となって課題解決ができるよう話し合いが行われました。

課題としては、「①地域に存在するミズキ資源の情報をいかに獲得するか」、「②資源状況を把握するために現地調査が必須であること」、「③資源循環のための植林が必要であること」等に加え「他地域（仙台市秋保、白石市等）においても同様の問題を抱えている」があげられました。

今回の懇談会により、関係者間での認識共有、意思疎通が図られ、今後、関係者による協議会の開催を検討することとなりました。



【懇談会の様子】



【要望書の手交】

森林経営管理制度大崎地域圏域推進会議を開催

北部地方振興事務所

【5日(月)】

制度開始から6年目を迎え、また、今年度から森林環境税の賦課徴収が開始されたこと等を踏まえ、制度に基づく森林整備がより円滑に進むよう、大崎地域圏域推進会議を開催しました。

会議では、森林環境税（国）とみやぎ環境税（県）の役割の違いについて理解を深めるとともに、森林環境税（国）の賦課徴収に伴う積極的な広報の実施等について意見交換を行いました。

今後も、適時の情報交換を行うとともに、知恵を出し合って制度の円滑な推進に努めてまいります。



【会議の様子】

林業教室の实地研修（仙台地方振興事務所との合同開催）

北部地方振興事務所

【27日(火)】

林業教室の受講生3名を対象に、仙台地方振興事務所と合同で实地研修を実施しました。

内容は、最近の動向を踏まえた座学（造林・間伐、林業労働安全）と活用が進んできた、人工衛星を利用した測量技術及びドローン操作の実習を行いました。

座学での基本的な知識の習得とともに、今後活用が増していく技術の習得の一助とすることができました。また、今後の業務を行う上での林業業界全般に係る意見交換の場とすることができました。



【座学】



【GNSS（上）とドローン（下）実習】

「杜のコケリウムコンテスト in 栗原 & ワークショップ」の開催

北部地方振興事務所栗原地域事務所

【11日(日)】

苔ファンの裾野を広げることを目的に、8月11日、泉青年会議所が主催するコケリウムコンテストのサテライト会場として、栗駒山麓ジオパークビジターセンターを会場に、栗原市民を対象とした「杜のコケリウムコンテスト in 栗原&ワークショップ」を22名の参加を得て開催しました。

ワークショップの講師は、今年4月に設置した「くりはら苔アンバサダーバンク」に依頼し、苔のお話、コケリウムの作成実演の後、参加者は各自作製に取りかかり、用意した黒土等で土台を作り、5種類の苔、カラーサンドや石、持ち寄ったキャラクターグッズなどを自由な発想で配し、自分だけのコケリウムを完成させていました。



【くりはら苔アンバサダーバンクの講師が丁寧に指導しました】

そして完成したコケリウムをスマートフォンで撮影し、チラシのQRコードからコンテンツ本部に画像を送信して、エントリーしました。

今回は苔アンバサダーバンクが企画段階から参画しており、今後、メンバーによる苔関連イベントの主体的な企画・実施を期待しているところです。



【今年は年齢制限をはずし、親子で参加できるようにしました】

みんなの森林づくり推進事業活動団体への支援

東部地方振興事務所

【1日(木)】

みんなの森林づくり活動団体より、活動のフィールド（地域の共有林）における施行区域の設定に時間を要しているとの相談を受けたため、活動団体とともに施行地を踏査し、GNSSやGIS機器を用いて施行区域の設定を支援しました。

活動区域が明確化されたことにより、早期に活動に着手することができました。また、団体の不安も払拭され、活動の円滑な推進に繋がりました。

今後も地域団体が行う森林整備について、必要な支援を実施していきます。



【施行地の様子】

海岸防災林イベント支援

東部地方振興事務所

【2日(金)】

市民参加型の海岸防災林整備イベントとして、小学生や地域住民を対象に下草刈りと合板工場の見学を行いました。

下草刈り作業では、子どもたちは鎌を持つのが初めてということでしたが、作業がスタートすると、一生懸命取り組んでいました。また、合板工場見学では普段目にすることができない大規模な工場に圧倒されながらも、興味深く説明を聞いている様子でした。

当日は非常に暑い日でしたが、途中で体調を崩す参加者もなく、無事に終了しました。

これからも海岸防災林の保全作業活動を通じ、地域住民の協働による海岸防災林の



【下草刈り作業の様子】

管理を目指した活動を支援していきます。

女川町に対する森林経営管理制度伴走型支援打合せ

東部地方振興事務所

【5日(月)】

伴走型市町村支援の対象市町である女川町に対し、第1回目の打合せが行われ、今後の実施計画やスケジュール等について打合せを行いました。

まずは、意向調査を終えたものや昨年度当所で支援した成果について、集積計画の作成に入ることとし、次回は9月末以降開催することとなりました。

今後も町の取組みに対して、関係機関と連携を図りながら指導助言を行っていきます。



【打合せの様子】

インターンシップ活動支援

東部地方振興事務所登米地域事務所

【7日(水)】

インターンシップ研修生とともに苗木生産者及び原木しいたけ生産者、木造施設等を訪問し、現場の苦労や課題等について直接話を聞く貴重な機会となり、生産現場の理解を深めることができました。



【苗木生産現場での聞き取り】

気仙沼市産きくらげの販売支援

気仙沼地方振興事務所

【2日(金)】

気仙沼合同庁舎で開催された地場産品直売会において、気仙沼市できくらげを生産する須田生花店が出店したことから、その販売支援を行いました。

普段は「潮風きくらげ」という名称で地元直売所や道の駅で販売されており、今回の販売会では2時間で約50パックを販売しました。購入者には店主の小野寺氏が作成したレシピ集や、当所で作成した「きくらげの下処理方法」チラシをあわせて配布することにより、PRを行いました。



【販売会の様子】

潮風きくらげの栽培は毎年夏季限定で行われていますが、今年は栽培規模を拡大していることから、引き続き販路開拓に向けて支援を行ってまいります。



【販売商品（潮風きくらげ）】

南三陸自伐型林業協会の設立

気仙沼地方振興事務所

【20日(火)】

自己の所有山林で森林施業で行う「自伐林家」に対し、管理を受託した森林の施業を行う林業者を「自伐型林家」といい、比較的参入障壁が低く、近年注目が集まっています。

気仙沼管内でも近年自伐型林家が増加しており、気仙沼市には、自伐型林家の支援団体が既に存在していましたが、今回、満を持して南三陸町でも自伐型林家の支援団体である「南三陸自伐型林業協会」が令和6年8月20日に設立されました。

協会の主な目的としては、①自伐型林業参入促進、②自伐型林家の経営自立伴走支援、③自伐型林家間の連携交流、④林家と自伐型林家とのマッチング、⑤森林整備の推進、⑥自伐型林業普及PRを通じて「里山の未来をつくる」の実現に向けて活動を開始されています。

県としても、自伐型林業への新規参入・定着の支援に関する補助事業や各種森林整備関係補助により、同協議会を支援して参ります。



【協会員の皆さん】

林業教室選択講座（チェーンソー）の開催

林業技術総合センター

【1日(木)】

当所林業機械実習舎他において、10名の研修生を得て、例年開催している林業教室を開催しました。

林業死亡労働災害多発警報発令中につき、講義全体を通じてに安全管理に重点を置き、身体バランスと錯視の確認、普段読み込むことの少ないチェーンソーマニュアルの読み込みとその必要性の理解、ソーチェン・ガイドバー及び本体の sprocket の型式、分解しての構造確認、紙と筆記用具で受口と追口を腰の移動のみで左右記載いただいた上で、チェーンブレイキ使用の徹底指導及び丸太のスリットを用いた水平切りのシャドウ練習を左右実施し、丸太の水平切り実技を実施いただきました。7割が特別教育修了者でありましたが、まだまだ初心者に見受けられますので、実務に際しては、自己鍛錬とOJTに期待するところです。

次回は、木材の基礎知識について学んでいただきます。



【チェーンソーマニュアルの読み込み】



【シャドウ練習の様子】

林業作業士（フォレストワーカー）3年目研修を支援

林業技術総合センター

【19日(月)】

当所林業機械実習舎他において公益財団法人みやぎ林業活性化基金宮城県林業労働力確保支援センターが12名の研修生を得て開催した標記研修会において、フォレストワーカー研修テキストV o 1. 3の「森林施業の体系及び森林整備の省力化・低コスト化作業」に係る講師依頼があったことから、テキストに沿い講義を実施するとともに、知識を補うために研修生を3グループに分け、伐出コスト算出に係る実技研修を実施する中で、代表者に試算内容を発表いただき、グループ間で検討いただきました。

これからも、林業後継者の育成に係る支援を行います。



【試算結果を発表する様子】

北海道・東北ブロック令和6年度林業グループコンクールの開催

林業技術総合センター

【29日(木)、30日(金)】

仙台市のホテル白萩において、ブロック内から86名の参加者を得て、コンクール形式の活動発表会を、全国林業研究グループ連絡協議会及び全国林業改良普及協議会と共催しました。ブロック内の7道県、それぞれから特徴的な活動内容が発表され、活発な質疑応答で盛り上がりました。また、特別講演では、ハウンドドッグ初代ベーシストの海藤節生氏による、環境保護に関するトークコンサートを開催しました。(コンサートの模様は、全国林業研究グループ連絡協議会 <https://zenrinken.com/>のYouTubeにアップロードされています)

翌日は、松島町において伊達政宗の林業施策と島嶼の松くい虫防除に係る現地視察を行いました。

これからも、グループ一丸となり、明るく楽しい林業の実現に向けて、研究を積み重ねます。



【コンクールの様子】



【特別講演の様子】



【仙台地方振興事務所から松くい虫防除の説明】